

平成 28 年度第 2 回国立大雪青少年交流の家施設業務運営委員会議事要旨

日時：平成 28 年 11 月 29 日（火）15:15～16:00

場所：国立大雪青少年交流の家本館第 1 研修室

運営委員出席者：笠井委員，大島委員，浜田委員（吉川代理），佐藤委員（尾中代理），目黒委員，石田委員，飯塚委員（三浦代理），瀨川委員，片岡委員，宝田委員，西村委員，十川委員，尾崎委員，岩城委員

計 14 名

運営委員欠席者：村上委員，西海委員，神子素委員，山中委員，松倉委員，田中委員

計 6 名

大雪青少年交流の家出席者：阿部所長，穴澤次長，秋山事業推進室長，久保企画指導専門職，村澤企画指導専門職，是安企画指導専門職，国枝企画指導専門職，安達企画指導専門職，安藤管理係長，澤田総務係長，三田総務係員

計 11 名

（●事務局 ○議長 □委員）

●開会宣言（穴澤次長）

●会議の流れ（穴澤次長）

会議日程，配布資料の確認，欠席委員の報告，交代施設業務運営委員の自己紹介。  
委員会規則第 6 条の規定に基づき，笠井委員長の進行で議事開始。

○議長

説明事項の意見・質疑について説明終了後に一括して行うこととし，議題「平成 28 年度事業（部会）中間報告」をそれぞれの部会から説明。

●各部会の進捗状況について，パワーポイント資料に基づき説明。

<利用促進部会>

尾崎部会長代理説明。

1 利用促進及び広報活動方針に関すること。

① 利用者数の確保（11 月 1 日現在）

目標：総利用者数 10 万 8 千人以上

（宿泊利用 7 万 1 千人，日帰り利用 3 万 7 千人）

現状（見込）：総利用者数 12 万 2 千人

（宿泊利用 8 万 8 千人，日帰り利用 3 万 4 千人）

② 稼働率の確保

目標：稼働率 54%以上の達成

現状（見込）：稼働率 62%

#### 【取組】

- ・美瑛町の特長（観光資源が豊富）町との連携による広報の継続
- ・文部科学省委託による国際交流事業の継続実施（H26～28）
- ・平成 28 年 7 月に美瑛町と共催で香港及び上海の音楽学校の子供たちと美瑛町の子供たちの交流事業の受入
- ・韓国のクロスカントリースキーチーム（オリンピック強化選手）が大雪のクロスカントリーコースの利用

#### 【結果】

交流の家HPを閲覧した韓国団体から問合せ  
閑散期（9月中旬から10月末）の長期宿泊利用  
（宿泊総利用者数約1万5千人の増）

- ③ 利用促進月間（10, 11, 2月）の青少年団体への利用促進近隣市町村商工会議所と連携した利用促進

目標：新規団体利用 14 件

現状：新規利用青少年団体 25 団体

- ④ 近隣市町村商工会議所と連携した利用促進

目標：会議・会合における利用促進を 3 件実施

現状：3 団体利用(株)梅谷, (株)カンディハウス, 川田工業

うち新規利用は(株)梅屋のみ, 今後さらに利用促進を図る。

- ⑤ 施設業務運営委員会との協働による特別企画事業の実施

目標：宿泊型 2 事業

現状：①旭川ケーブルテレビ(株)との共同事業（レク婚）の実施

②北海道青年団体協議会青年大会の実施

※今後の青年層の利用促進に繋がる取組, サポートが必要。

- ⑥利用者数分析に基づく方法活動の効果的な展開

目標：分析に基づく広報用チラシ（パッケージプラン）作成

現状：①企業・高齢者大学・スポーツ団体・公民館向けチラシの作成・配布実施

②大学部活向け 現在作成中

今後, 各団体について訪問広報を展開する必要がある。訪問先については, 今後の検討課題

## 2 研修支援に関すること

- ① 「施設の研修支援等に関する自己採点表」の達成度の向上

目標：達成度 80%以上の確保

現状：達成度 92%→年度末 98%（予定）

#### 【今後の予定～研修支援の意効果的な実施・団体支援のための～】

- ・学校団体用の参考資料等を作成, HPに掲載（モデルプラン）
- ・提供するプログラムの体験会・研修会の実施を予定

- ② 研修支援団体への活動プログラム支援の在り方の見直し

- ・①のプログラム体験会の実施として実施する
- ③ 活動コース等の安全管理・活動プログラムの危機管理対策の整備を通じた教育環境の整備
  - 目標：活動コースの定期点検実施・危機管理マニュアル見直し
  - 現状：定期点検・記録の整備実施
  - 今後の予定：危機管理マニュアルの見直し，さらに実効性のある改訂版マニュアルの作成
- 3 広報活動の充実に関すること
  - ① 職員一芸選択プログラムの見直し
    - ・1⑥で見直しをした高齢者大学向けのチラシとして作成
  - ② 利用者アンケート「パンフレットやホームページなど事前の情報提供」における満足度
    - 目標：「満足」「やや満足」で100%達成
    - 現状：100%
    - 今後の予定：ホームページ，Facebookの充実，利用者にあった情報提供

#### <事業部会>

##### 大島部会長説明

#### 1 教育事業等の企画運営に関すること

- ① 企業や民間団体等各機関と連携した3事業以上の実施（11月1日現在）  
7事業において企業や民間団体等各機関と連携している。
- ② 全ての教育事業で募集定員を充足させる  
体験の風キャンプのみ，定員を割る。（対象施設の在園児の減少のため）
- ③ 全ての教育事業の募集開始を5週間前に実施する  
8事業のうち，6事業で達成。
- ④ 企画段階から関係機関・団体等との検討委員会を実施  
2事業で実施。  
ユースオブワールド（8名で構成）  
ワイルドライフキャンプ（5名で構成）  
事業の企画段階からご意見をいただき，地域の教育力向上につながるプログラム開発に務めた。
- ⑤ 指導者養成事業において毎年度平均80%以上の評価を得る  
満足度80%以上は2事業  
（スキルアップセミナー，ゆーすぴあキャンプの2事業）  
やや満足も加えると全教育事業で80%を超える。
- ⑥ リレーションシップ事業を活用した「早寝早起き朝ごはん」国民運動の推進
  - ・びえい冒険キッズでは親を対象に，子どもの生活習慣リズムや読書体験についての交流を実施

・アスリートキッズでは、子供を対象に「成長期の体づくりについて」プログラムの実施

・オリンピックの立石諒選手が水泳を指導

⑦ 幼児期の遊びを中心とした運動プログラムの推進

・7月に大島部会長の協力を得、日帰りで実施

・10月より、美瑛町、旭川市内の幼稚園・保育園への出前開始（11か所）

・2月4日には大雪青少年交流の家を会場に1泊2日で親子事業を実施予定（機構本部で開発した「36の基本的な動き」のプログラムを使用）

⑧ 体験の風をおこそう運動の普及啓発

道内すべてのエントリーを得る（179市町村）

2 連携促進事業に関すること

① 北海道青少年教育施設協議会と連携した研修会の実施

・青少年スキルアップセミナー（4月23日、24日）

・体験の風をおこそう全道フォーラム（11月5日、6日）

② 市町村教育委員会等と連携した体験活動・生活習慣・読書週間定着の取組や事業の実施

・体験活動推進地域モデルプログラム開発事業（釧路町）

・被災地支援事業「スノーキャンプ in 北海道～白い雪と新しい友達と出会い」

・苫前町「ワンダースノーランド in 大雪」

・幕別、池田、大樹町の帯広東部4町図書館事業との連携

※平成28年度の特筆すべき事業「50周年記念事業」総数477名

北海道青年団体協議会青年大会（7月2日～3日）91名

全道高齢者大学移動学校祭（7月4日～5日）179名

子どものための火山防災フォーラム（9月24日～25日）32名

北海道職業高校の祭典（10月2日）33名

「体験の風をおこそう」全道フォーラム（11月5日～6日）142名

<管理運営部会>

瀬川部会長説明

1 50周年記念事業に向けた事業計画及び寄附金獲得に関すること

① 50周年記念事業の支出報告 総額：8,460,080円

・50周年記念式典及び祝賀会 : 4,478,541円

・北海道青年団体協議会青年大会 : 71,876円

・全道高齢者大学移動学園祭 : 447,159円

・子供のための火山防災フォーラム : 91,923円

・ゆーすフェスタ 2016 兼北海道職業高校の祭典

: 1,138,375円

・体験の風をおこそう・全道フォーラム

: 2,232,206円（仮）

② 寄付金計画（目標額 350 万円）

寄付総額：4,919,950 円（平成 28 年 11 月 28 日現在）

- ・美瑛町：2,000,000 円
- ・企業：1,424,750 円
- ・OB：930,370 円
- ・その他：564,830 円

寄付者で希望のあった方について、HP 及び食堂前廊下に名前を掲載、企業の皆様については、希望で記念誌の後半に広告ページを設け企業名を挙げている。

2 受益者負担の適正化に関すること

① 講師棟施設使用料収入の導入（平成 28 年 10 月 1 日より実施）

講師棟利用（10 月末現在）

延べ人数：125 人，施設使用料収入：150,000 円

※支出 190,000 円（講師棟に設置した棚，ランドリーボックス，シャンプー，リンス類，タオル，歯ブラシ関係の購入を含んでいる。）

11 月 28 日現在 70,000 円増の見込み

② バス利用料金徴収の検討（予定）

- ・導入時期：平成 30 年 4 月 1 日
- ・対象団体：青少年団体のみ
- ・金額：

a) 使用料	交流の家～旭川市内	1,000 円
	交流の家～美瑛町内	200 円
b) 燃料費	大型バス	1 k m 当たり 20 円
	マイクロバス	1 k m 当たり 10 円

予算の縮小や、利用ニーズの拡大を受け導入を検討平成 29 年 4 月 1 日までに導入を決定する予定。

3 施設・設備の長期計画（施設マスタープラン）の策定に関すること

※本部要求予算の実現

① 温泉管漏水修繕工事：825,000 円

② 浴室排水管改修工事：438,000 円

※台風被害関連修繕工事

① 体育館屋根補修工事：972,000 円（式典会場）

② 食堂テラス床修繕工事：810,000 円（祝賀会会場）

③ 台風被害倒木処理工事：721,000 円（全体）

※改修履歴の更新・関係機関（文部科学省・国土交通省）への働きかけ

今後のライフライン整備・バリアフリー化・照明の LED 化等を視野に施設マスタープランの策定し，機構本部への提出予定

4 ナショナルセンターの職員として，高い倫理観・使命感を兼ね備えた人材の育成に関すること

① 人材育成基本計画の内容の見直し，適切な時期に，効果的・効率的な研修の実施

救命救急（心肺蘇生）2月 ⇒ 5月

保健衛生（ノロ） 1月 ⇒ 10月

※人事異動等による職員の入れ替わりへの対応やノロウイルスやインフルエンザが本格的に流行する前に研修を行う

また、高い使命感の育成にあたり、ハイキング・登山など広大なフィールドを提供していることから危機管理・安全管理は非常に重要なウエイトを占める。

活動時の気象状況や登山等実施に係る可否の判断基準を整理し、職員の共通理解を図ること。また、職員による登山やハイキングコースの踏査研修や危険個所の点検を日常から行い、利用者が安全かつ有意義な活動ができるよう職員一人一人が日頃から危機管理・安全管理の意識付を行い、適切なアドバイスができるよう、使命感を持った人材の育成に取り組んでいる。

○議長

各部会からの報告等について、意見・質問等があればお願いしたい。

□委員

特になし。

○議長

その他意見・質疑等がなければ以上で予定していた議事を終了する。

□委員

特になし。

●事務局（穴澤次長）

国立大雪青少年交流の家開所50周年記念式典DVDの放映（約6分）

●阿部所長より挨拶

●開会宣言（穴澤次長）

全体会終了。